

## 島根県森林審議会（令和元年度第1回）議事要旨

■日時 令和元年8月29日（木）10:00～15:30  
■場所 〈審議〉島根県中山間地域研究センター 大会議室  
〈現地視察〉邑智郡美郷町村之郷 簡易架線集材技術研修 現場

### ■出席者

【委員】伊藤委員（会長）、広江委員、立石委員、吉川委員、浦田委員、川上委員、大久保委員、塩見委員、田中委員、樋口委員

【事務局】前島農林水産部次長、日下林業課長、錦織GL、武田GL、野田上席調整監、中尾農林水産総務課管理監、外関係職員

### ■審議会の概要

#### 1. 開 会

2. 農林水産部次長あいさつ 前島農林水産部次長

3. 中山間地域研究センター施設紹介 堂領調整監

4. 委員紹介 伊藤委員 他 自己紹介

#### 5. 役員改選

(1) 会長 互選により 伊藤勝久委員

(2) 会長職務代理者 互選により 広江慎一委員

(3) 森林保全部会の設置に伴う部会員及び部会長の指名

部会員：山崎英樹委員、広江慎一委員、吉川由希子委員、浦田明彦委員、  
樋口千代子委員

部会長： 広江慎一委員

#### 6. 議 事

##### (1) 協議事項

##### ①水と緑の森づくり税・事業について

資料1

(説明：林業課 日下課長)

- ・平成17年度から始まった「水と緑の森づくり税」が第3期を迎え、これまでの実績と今後について説明、意見聴取

〈主な意見〉

- 原木生産が増え、植栽すべき場所が年々増加していく状況。植栽の元となる種子の確保や、苗木をしっかりと供給していく体制の整備など継続的な対策が必要
- 30年前は山で作業する人の4人に1人が女性だった。今後植栽が増えていくと雇用確保の面からも女性の参入を増やす対策が必要
- 皆伐後の植栽は、全て同一樹種を植えるのではなく、尾根部には広葉樹を植え、中間部から下にはスギ・ヒノキを植えて収益をあげるなど適地適木の考えを取り入れることが必要
- 林業への就業を促すためにも、高等学校のカリキュラムの中でしっかり教育していく対策が必要
- 学生への教育も大事であるが、特に進路を左右する進路指導教員に対し、林業についての理解を深めてもらうことが必要
- 現在みーもスクールの対象は小中学校に限定されているが、保育でも実施できるよう追加してもらいたい。また、こうした取組に熱心な保育園や小学校が継続して実施することが重要なので、そうした仕組みを検討してもらいたい

- 森林・林業のことを教えてくれる専門家を派遣するサポートセンターの役割は、大きい。サポートセンターの機能を維持強化することが必要
- 水と緑の森づくり税の認知度を高めるため、PRなどの広報が必要

②新たな農林水産業・農山漁村活性化計画の実施状況と今後の方針について  
(説明：農林水産総務課 大国企画幹)

資料2

- ・第3期戦略プランについて、取りまとめ資料に基づき、実績等を説明

(2) 報告事項

①森林保全部会の開催状況について

資料3

(説明：広江委員 (森林保全部会長))

- ・3件の諮問に対して、「原案を認める」が2件、「許可相当と認める」が1件を答申したことを報告

7. 重点推進事項 現地視察

資料4

①農林大学校主催 架線簡易集材技術研修 現地視察

○現地：邑智郡美郷町村之郷 造林地

○農林大学校林業科2年生 9名が研修中。搬出作業を視察した後、意見交換を実施



8. 閉 会

9. 農林水産部次長あいさつ 前島農林水産部次長